

放課後子どもプラン推進事業実施要綱

平成19年4月1日
教育庁生涯学習課
福祉保健部児童家庭課

1 目的

少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て機能・教育力の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保を図るとともに、次世代を担う児童の健全育成を支援することを目的とする。

2 事業の内容

この要綱において、次の事業を放課後子どもプラン推進事業とする。

- (1) 放課後子ども教室推進事業等（内容については、別添1のとおり）
 - I 放課後子ども教室推進事業
 - II 放課後子ども教室備品整備事業
 - III 放課後子ども教室指導者研修・推進委員会事業
- (2) 放課後児童健全育成事業等（内容については、別添2のとおり）
 - IV 放課後児童健全育成事業
 - V 放課後児童クラブ支援事業

3 事業の実施方法等

各事業の実施については、別添1及び2に定めるところによるものとする。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

【別添1 放課後子ども教室推進事業等】

I 放課後子ども教室推進事業

1 趣 旨

本事業は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。

2 実施主体

本事業の実施主体は市町村等とし、事業の一部（教室運営に当たる部分）を適当と認められる社会教育団体等に委託して行うことができる。その際、教室を運営する団体等との間に委託契約を締結し、責任の所在等を明確にしなくてはならない。

3 対象とする子どもの範囲

本事業では、主に小学生を対象としているが、幼児や中学生の参加も可能である。

4 運 営

本事業の運営は、次により実施する。

(1) 放課後子ども教室の実施

ア 本事業の実施に当たっては、子どもたちの安全管理を図る者（以下「安全管理員」という。）を配置する。その選任に当たっては、子どもたちの健全育成に情熱を持つ地域の信頼できる者が望ましい。

イ 本事業の実施に当たっては、学ぶ意欲がある子どもたちに対して、学習機会を提供する取組の充実を図る者（以下「学習アドバイザー」という。）を配置することができる。その選任に当たっては、地域のニーズに配慮しつつ、学習の内容に応じて、子どもたちの健全育成に情熱を持つ地域の信頼できる者が望ましい。

具体的には、教職を目指す大学生や退職教員、社会教育団体関係者、民間教育事業関係者等、地域で活躍している様々な分野の方々が考えられるが、特に資格等は必要としない。

ウ 本事業は、基本的に、小学校施設（教室や余裕教室、校庭、体育館等）を活用して実施するが、地域の実情に応じて、公民館等の社会教育施設、児童館等、安全・安心して活動できる場所で実施することもできる。その際、学校や自宅から当該施設への移動について、安全面に十分留意すること。

エ 本事業は、概ね年間を通じて、放課後や週末、長期休業日に継続的に実施することを基本とするが、地域の実情や活動内容に応じて、実施主体が開催日数・時間等を判断することができる。

オ 本事業の実施に当たっては、より多くの地域の方々の参画（無償ボランティアを含む。）を得ることで、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりに努める。

カ 本事業の子ども参加人数については、地域の実情や活動内容により実施主体が判断する。ただし、居住の別や国公立の学校種別等の制限を設けることなく、地域の実情に応じて、できる限り多くの子どもたちが参加できるよう配慮する。

キ 本事業の実施に当たっては、障がい者を有する子どもたちに対しても、放課後や週末等における活動の場として活用されることが望ましいことから、これらの子どもたちが本事業に参加する場合は、個々の状況に配慮した活動を行うために、人的体制の確保等の適切な措置を必要に応じて講じる。

ク 本事業を円滑に実施をする観点から、県が実施するコーディネーター、安全管

理員、学習アドバイザー等を対象とした研修への積極的な参加に努める。
ケ 週末や長期休業中において、「教室」を離れての活動を行うことができる。ただし、バスの賃借等、経費が発生する遠距離の活動は、年間5回程度までとする。
コ 教室のある地域の行事に参加したり、地域の方々を教室に招く行事を企画したりするなどして、地域との連携を密にとるよう努める。

(2) 運営委員会の設置

本事業実施市町村は、域内の放課後子ども教室推進事業及び児童福祉法第6条の2第2項に規定する放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）（以下「放課後対策事業」という。）の運営方法等を検討する運営委員会を設置しなくてはならない。

ア 審議内容

事業計画の策定、安全管理方策、広報活動方策、ボランティア等の地域の協力者の人材確保方策、活動プログラムの企画、事業実施後の検証評価等について検討する。

イ 運営委員の選定

行政関係者（教育委員会及び福祉部局）、学校関係者、放課後児童クラブ関係者、社会教育関係者、児童福祉関係者、PTA関係者及び域内の地域住民等を、各地域の実情に応じて適宜選定する。

ウ 運営委員会の開催

年間を通じて時期の偏りがないよう定期的に行うことに努める。

(3) コーディネーターの配置

本事業実施市町村は、各小学校区毎に、放課後対策事業の総合的な調整役を担う者（以下「コーディネーター」という。）を配置しなくてはならない。

ア 選任

各地域の中心的な役割を担い、学校関係者、放課後子ども教室・放課後児童クラブ関係者、地域の団体、保護者等と良好な関係を保ち、定期的に連絡調整を行うことが可能な、子どもたちの健全育成に情熱を持つ地域の信頼できる者が望ましい。

イ 業務内容

本事業と放課後児童クラブとの連携についての調整を図ることのほか、保護者等に対する参加の呼びかけ、学校や関係機関・団体等との連絡調整、ボランティア等、地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等を行う。

(4) 共通事項

ア 市町村は、基本的に教育委員会（学校教育や学校安全主管課を含む。）が主導して、福祉部局との連携を図り、学校、PTA、自治会など地域全体の協力を得て、本事業の実施に当たるものとする。

イ 市町村は、総合的な放課後対策事業を推進する観点から、放課後児童クラブと一体的あるいは連携して、域内の子どもたちの放課後子ども教室推進事業への参加促進に努める。

5 事業の内容

本事業においては、次の内容・機能を有するものとし、その実現に向けて努力すること

- (1) 放課後や週末等における、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）の確保
- (2) 地域の多様な大人の参画を得て、子どもたちに、様々な体験・交流・学習活動の機会を提供

- (3) 様々な体験・交流・学習活動を通して、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性の涵養と基本的な生活習慣や集団生活上必要な規律の習得
- (4) 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実
- (5) 保護者との情報交換や保護者の活動への参加等による家庭教育への支援
- (6) その他子どもたちが地域の中で安心して健やかに育まれる環境づくりを推進するために必要な活動

6 費用

- (1) 県は、上記2～5の要件を満たした市町村が実施する事業又は委託して実施する事業に対して、予算の範囲内で補助するものとする。
- (2) 本事業の事業費は、別途定める「放課後子ども教室推進事業補助金積算資料」のとおりとする。

Ⅱ 放課後子ども教室備品整備事業

1 趣 旨

放課後子ども教室を実施する場合において、余裕教室等の施設を放課後子ども教室用のスペースに整備するため、必要な備品を設置し、放課後子ども教室運営の円滑かつ速やかな実施を図ることを目的とする。

2 実施主体

本事業の実施主体は、市町村とする。

3 事業の対象

I に基づく放課後子ども教室推進事業を新たに実施するための施設に必要な、既存施設の改修を伴わない設備の整備（備品の購入）を行う事業。

4 対象事業の制限

- (1) 本事業について、当該年度に I の放課後子ども教室を実施しないところは対象外とする。
- (2) 他の国庫補助等を受ける場合は、本事業の対象とはならない。
- (3) 改修を伴う設備の整備は、本事業の対象とはならない。
- (4) 本事業は、1 放課後子ども教室につき 1 回限りとする。

5 費 用

- (1) 県は上記 2～4 の要件を満たし、且つ市町村が実施する事業に対して補助するものとする。
- (2) 本事業の事業費を積算する際は、以下に基づき事業費を計上すること。
 - ア 具体的な備品については、以下のようなものが考えられるが、各市町村の実情に応じて、放課後子ども教室を実施するスペースの整備に必要な備品を適宜積算する。
 - イ 1 放課後子ども教室あたりの単価については、各教室の実情（開催日数や参加人数等）に応じて、計上して差し支えない。
 - ウ 実施計画書に記載のない備品を購入する場合は、県の事前承認を必要とする。

【開設備品の例】

カーペット、ロッカー、保管庫（事務資料用）、ノートパソコン、プリンター、テレビ、エアコン（取付費含む）、折りたたみ座卓、事務用机・椅子、冷蔵庫、スポーツ用具（ボールかご等） など

Ⅲ 放課後子ども教室指導者研修・推進委員会事業

1 趣 旨

県内の放課後子ども教室推進事業及び児童福祉法第6条の2第2項に規定する放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）（以下「放課後対策事業」という。）の総合的な在り方の検討を行うために推進委員会を設置するとともに、県内で実施される放課後対策事業に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者の資質向上や情報交換等を図るための研修を行い、放課後子どもプランの推進を図る。

2 実施主体

本事業の実施主体は、県教育委員会とする。

3 運 営

本事業の運営は、次により実施するものとする。

(1) 推進委員会の設置

ア 県教育委員会は、県内の放課後対策事業の在り方等を検討する推進委員会を設置する。

イ 審議内容

放課後対策事業の実施方針、安全管理方策、広報活動方策、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等を検討する。また、必要に応じて、子ども教室を見学したり、実施市町村から実施状況等の報告を求めたりして、事業の円滑な実施のための指導・支援を行う。

ウ 推進委員の選定

行政関係者（教育委員会及び福祉部局）、学校関係者、社会教育関係者、福祉関係者、学識経験者等を適宜選定する。

エ 推進委員会の開催

年間3回実施する。

(2) コーディネーター研修の実施

県教育委員会は、市町村が各小学校区毎に配置するコーディネーターに対して、放課後対策事業の現状や放課後子どもプラン関係施策の概要、ボランティア等の地域の協力者の人材確保策等の資質向上を図るための講義等の開催や、他の放課後子どもプラン事業関係者との情報交換・情報共有を図るための研修を実施する。

(3) 安全管理員等研修の実施

県教育委員会は、市町村が実施する放課後対策事業に関わる安全管理員や学習アドバイザー等に対して、安全管理方策、子どもとの接し方、活動プログラムの企画実施方策等の資質向上を図るための講義等の開催や、他の放課後子どもプラン事業関係者との情報交換・情報共有を図る研修を実施する。

4 留意事項

放課後児童健全育成事業で実施する研修との連携を図り、放課後子ども教室推進事業及び放課後児童クラブそれぞれの担当者又は指導員等が両研修を相互に受講できるようにする。そのために、両研修内容の整合性や日程等にも配慮する。

5 費 用

本事業の事業費は、以下の内容を基準として積算する。

(1) 推進委員会経費

ア 委員等謝金・旅費、通信運搬費、印刷製本費、会議費、消耗品費等

イ 実施市町村の教室訪問、協議を行うための事務局職員の旅費

(2) コーディネーター研修経費・安全管理員等研修経費

ア 講義謝金・旅費、印刷製本費、会場借料、消耗品費、事務局職員旅費等

【別添2 放課後児童健全育成事業等】

IV 放課後児童健全育成事業

1 趣 旨

児童福祉法（昭和22年法律第164号。以下「法」という。）第6条の2第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学しているおおむね10歳未満の児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室、児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものである。

2 実施主体

本事業の実施主体は、法第34条の7の規定に基づき、市町村、社会福祉法人その他の者（以下「市町村等」という。）とする。

3 対象児童

本事業の対象児童は、法第6条の2第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校1～3年に就学している児童であり、その他健全育成上指導を要する児童（特別支援学校の小学部の児童及び小学校4年生以上の児童）も加えることができるものであること（以下「放課後児童」という。）。)

4 運 営

本事業の運営は、次により行うものであること。

- (1) 本事業の実施に当たっては、遊びを主として放課後児童の健全育成を図る者（以下「放課後児童指導員」という。）を配置し、放課後児童を受け入れるものであること。
- (2) 放課後児童指導員の選任に当たっては、児童福祉施設最低基準（昭和23年厚生省令第63号）第38条に規定する児童の遊びを指導する者の資格を有する者が望ましいこと。
- (3) 本事業は、放課後児童の就学日数、地域の実情等を考慮し、年間250日以上開所すること。（ただし、平成21年度までは、特例として200日以上でも補助の対象とする。）
また、開所時間については、1日平均3時間以上とすること。ただし、長期休暇期間などについては、子どもの活動状況や保護者の就労状況等により、原則として1日8時間以上開所すること。
- (4) 本事業は、小学校の余裕教室や小学校敷地内の専用施設のほか、児童館、保育所や団地の集会室などの社会資源を活用して実施すること。
なお、同じ建物内で、別添1に基づく放課後子ども教室推進事業（以下、「放課後子ども教室推進事業」という。）など、すべての子どもを対象とした活動拠点（居場所）の提供を併せて行う場合には、放課後児童のために間仕切り等で区切られた専用スペース又は専用部屋を設け、生活の場としての機能が十分確保されるよう留意すること。
- (5) 子どもの情緒の安定や事故防止を図る観点から、1クラブ当たりの放課後児童の人数が一定規模以上になった場合には、分割を行うなど適正な人数規模のクラブへの転換に努めること。（ただし、平成21年度までは、経過措置として1クラブ当たりの児童数が71人以上の場合も補助の対象とする。）
- (6) 本事業は、法第6条の2第2項及び児童福祉法施行令（昭和23年政令第74号）第1条の規定に基づき、利用する放課後児童の健全な育成が図られるよう、衛生及び安全が確保された設備を備える等により実施されなければならないものであり、その活動に要する遊具、図書及び児童の所持品を収納するためのロッカーの他、生

活の場として必要なカーペット、畳等を備えること。

- (7) 本事業の実施に当たっては、家庭や放課後子ども教室推進事業の担当者及び関係機関との連携を図ること。
- (8) 本事業の実施に当たっては、子どもの様子の変化や小学校の下校時刻の変更などに十分対応できるよう、小学校の教職員との間で迅速な情報交換ができる体制を整備すること。
- (9) 本事業の実施に当たっては、地域における放課後児童の状況を的確に把握するとともに法第56条の6第2項の規定に基づき、本事業を行う他の者との相互連携、放課後児童及びその家庭からの相談等地域の実情に応じた積極的な支援を行うように努めなければならないこと。
- (10) 本事業の実施に当たっては、本事業の加入申込み等に係る書類について、所定の様式を定め整備すること。
- (11) 本事業の実施に当たっては、児童の安全管理、生活指導、遊びの指導等について、放課後児童指導員の計画的な研修を実施するものとし、また児童館に勤務する児童厚生員の研修や放課後子ども教室推進事業の担当者研修との連携を図ること。
- (12) 市町村は、児童の保護者、児童委員、民間の児童健全育成ボランティア等の協力を得て本事業の支援に当たるものとする。
- (13) 市町村は、法第21条の10の規定に基づき、放課後児童の本事業の利用に関する相談及び助言、地域の実情に応じた本事業の実施及び本事業を行う者との連携等により、放課後児童の本事業の利用の促進に努めなければならないこと。

5 事業の内容

本事業は、次の内容・機能を有するものとする。

- (1) 放課後児童の健康管理、情緒の安定の確保
- (2) 出欠確認をはじめとする放課後児童の安全確認、活動中及び来所・帰宅時の安全確保
- (3) 放課後児童の活動状況の把握
- (4) 遊びの活動への意欲と態度の形成
- (5) 遊びを通しての自主性、社会性、創造性を培うこと
- (6) 連絡帳等を通じた家庭との日常的な連絡、情報交換の実施
- (7) 家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援
- (8) その他放課後児童の健全育成上必要な活動

6 留意事項

- (1) 本事業は、その目的を異にするスポーツクラブや塾等、その他公共性に欠けるものについては対象としないものであること。
- (2) 本事業の実施主体は、政治的又は宗教上の組織に属さないものであること。

7 費用

- (1) 県は、上記2～6の要件を満たした市町村が実施する事業又は助成する事業（放課後児童が10人以上に限る。ただし、開設日数が200～249日の場合は、放課後児童が20人以上に限る。）に対して、別に定めるところにより補助するものとする。
- (2) 市町村等は、本事業を実施するために必要な経費の一部を、保護者から徴収することができるものとする。

V 放課後児童クラブ支援事業

1 趣 旨

放課後児童健全育成事業を実施するための施設（放課後児童クラブ）へのボランティアの派遣や放課後児童指導員の健康診断等を行うことにより、放課後児童クラブの円滑な事業実施に資するとともに、放課後子どもプランの推進を図ることを目的とする。

2 実施主体

本事業の実施主体は、市町村とする。

3 事業内容

実施主体は、次の何れかの事業を実施するものとする。

(1) ボランティア派遣事業

児童が地域の様々な人々と関わり合うことは、児童の成長・発達において重要であることから、市町村が、伝統的技術や自然体験の技術などを持つボランティアの登録名簿を作成し、以下の①～④の何れかの事業を実施するために放課後児童クラブへ派遣する。

① 伝承遊び等事業

お手玉、けん玉、あやとり、民謡、太鼓、囲碁、将棋、カルタ遊び、工作、折り紙などの遊びの指導を実施する事業。

② 自然等体験事業

田植え、畑づくり、地域のお祭りへの参加、草木や野鳥や昆虫などの自然観察などの体験活動を実施する事業。

③ 巡回派遣事業

障害児と健常児の関わり合いなど、放課後児童クラブを行うに当たって配慮が必要な児童への生活指導等を行う放課後児童指導員に対する援助を実施する事業。

④ 長期休暇派遣事業

長期休暇期間において、利用時間が長くなることや一時的に利用する児童の増加などに配慮して生活指導等を行う放課後児童指導員に対する援助を実施する事業。

(2) 放課後児童の衛生・安全対策事業

感染症罹患等の有無を発見するため、民営の放課後児童クラブに従事する放課後児童指導員に対する健康診断を行う。

4 留意事項

(1) 3の(1)の実施に当たって同じ小学校で放課後児童クラブと別添1に基づく放課後子ども教室推進事業を実施する場合は、ボランティアの効果的な活用を図ること。

(2) 3の(3)の実施に当たっては、感染症等にかかる健康診断について既存の制度等を活用するなどして柔軟に実施すること。

5 費 用

県は、市町村が実施する事業に対して、別に定めるところにより補助するものとする。